

[008]附属環境工学研究教育センター研究活動報告

<https://hdl.handle.net/2324/7434592>

出版情報：附属環境工学研究教育センター研究活動報告. 8, 2026-07-10. Center for Research and Education of Environmental Technology, Faculty of Engineering, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



巻頭言

附属環境工学研究教育センターの研究・教育活動について



センター長 守田 幸路

附属環境工学研究教育センターは、2018 年の設置以来、ローカル、インターフェース、グローバルの三つの研究ハブを基盤として、環境に関わる諸課題に対する研究および教育活動を継続的に推進してまいりました。本号では、昨年度（2025 年度）における本センターの研究・教育の取組状況についてご報告いたします。

本センターでは、2023 年度に研究組織および研究課題の見直しを行い、現在の体制へと移行しました。2025 年度は、新体制のもとでの取組が着実に積み重ねられる段階に位置づけられ、各研究ユニットにおいては、これまでに整備されてきた研究基盤および連携体制を踏まえつつ、それぞれの課題に即した研究・教育活動が展開されました。個々の研究は、それぞれの専門分野に深く根差しながらも、センターという共通の枠組みのもとで、相互に関連づけられながら継続的に進められております。

近年の国際情勢は、社会経済の不確実性の高まりと相まって、環境問題の捉え方にも少なからぬ影響を及ぼしています。とりわけ、中東地域をめぐる情勢の変化を背景として、環境とエネルギーの双方の視点から諸課題を考察する重要性が、改めて認識されつつあります。このような状況の下、環境工学分野においては、広い視野から課題を捉え直し、地域的課題と国際的課題の双方を視野に収めた研究の意義が、いっそう高まっているものと考えられます。

こうした背景を踏まえると、地域社会との連携や国際的な研究交流、さらには次世代研究者の育成といった観点に加え、環境とエネルギーを一体的に捉える姿勢は、今後の環境に関わる研究・教育を進める上で、ますます重要になるものと考えられます。2025 年度においても、本センターの各研究ユニットは、それぞれの研究課題に応じて、関係機関との協力、研究成果の発信・共有、教育活動との連動に取り組んでまいりました。

附属環境工学研究教育センターは、多様な専門分野の研究者が集い、相互に連携しながら研究・教育を推進する拠点として、今後もその役割を果たしていくことが期待されております。本年報が、本センターの活動への理解を深めるとともに、今後の研究・教育の展開を考える上での一助となれば幸いです。